

## 平沢復興大臣記者会見録

(令和2年10月22日(木) 14:30~14:35 於) 北原団地集会所)

### 1. 発言要旨

今日は、まず大熊町に行きまして、中間貯蔵施設の視察を行いまして、その後南相馬市で福島ロボットテストフィールドの視察、それから復興公営住宅、北原団地の住民の方、そしてコミュニティ支援NPOの方との意見交換を行ったところでございます。

中間貯蔵施設や福島ロボットテストフィールドでは、直近の取り組み状況について、いろいろと話を伺ったところでございます。

それから北原団地の皆さんとは、今お話ししまして、特に高齢者が増えてきている中で、いわば地域の人々との触れ合い、コミュニティといいますか、絆が弱まってきていると。将来、孤独死の心配とか、そういったこともあり得るので、そういった絆を強める努力をお互いにしていかなきゃならないというような話が出たところでございまして、NPO「みんぷく」の方にも、しっかりとこれから御活動をお願いしたいということで終わったところでございます。

私からは以上でございます。

### 2. 質疑応答

(問) トリチウム水の処分についてなんですが、福島県民から風評を懸念する声が上がっています。その声を大臣自身どのように受け止めているのかと、あと放出について、いつどのタイミングでやると大臣自身考えているか教えてください。

(答) 放出については、これは政府のほうで決めることなんですけれども、まだこれをお話しできる段階ではないということで、そこは御理解いただきたいと思います。この問題については、私は前々から申し上げていきますとおり、福島県の皆さん方のお気持ち、それと御心配、そういった声にしっかりと寄り添って、それでしっかりと皆さん方の御理解、御納得をいただけるように努めていきたいということで考えております。

(問) 今日、中間貯蔵施設もご覧になられて、その御感想をお聞かせいただけますか。

(答) 中間貯蔵施設を見まして、原発の問題の根は、もちろん前々から思っていたことなんですけれども、根は深いなど。中間貯蔵施設も、あくまでも中間貯蔵施設だと。あそこに運ばれたものも、いずれまたどこかに運んでいかなければならないわけございまして、それで言えば、これは本当にまだまだ末永く続くわけで、とりわけ福島の皆さん方には大変な御迷惑、御心労をおかけすることに

なるわけで、そのことを私たちは一時も忘れないで、そしてもしこうした皆さん方に、こういった御心配をおかけするのは最小限にすると同時に、何らかのこういった御心配をおかけしなきゃならないんだったら、その御心配を少しでも減らせるように、全国の人に分ち合うこと、これが私は必要なんじゃないかなと思います。

(問) ロボットテストフィールドを視察されたと思うんですけども、そういった状況を見て、復興が進んでいるかどうかというのは、大臣的にはどう思われましたか。

(答) そのこのフィールドの視察をして、大変に研究機関の方が頑張っておられて、それで日本最先端の技術開発・研究が進んでいるということは大変に喜ばしい限りで。これからさらに国としても応援していきますので、ぜひ頑張ってください、あのフィールドがまさに日本一の研究機関、今度国際教育研究拠点がこちらにできますけれども、それとはまた別ですから、教育研究拠点とは別の形で、いわばいろんな実験施設として、それで最先端の技術を開発する機関として頑張ってもらいたいなど。福島イメージアップ、そしてレベルアップにも、ぜひつなげてもらいたいなどということを痛感したところでございます。

(以 上)